

経営後継者研修だより

6・7月のトピック

校外実習「経営総合実習」を実施しました。
卒業発表となる「ゼミナール論文発表会」を開催しました。

6月は12日間にわたって「経営総合実習（以下、当実習）」を行いました。これまでの講義等で修得した知識・技法を実践で試す機会となります。当実習では、研修生が2班（飲食業、製造業）にわかれ、実習先企業（以下、実習先）の経営実態を調査・分析し、実習先の今後のあるべき姿、その実現のための方策を考えました。そして、7月16日、第41期経営後継者研修が終講しました。ゼミナール論文発表会では、派遣元企業の代表者をお招きし、自社の現状とあるべき姿の考察と帰社後の自身のアクションプランを発表しました。遠方の派遣元企業とはオンラインで繋ぎ、発表の様子を配信しました。派遣元企業代表者や従業員の皆様、共に過ごした仲間への感謝の気持ちを口にし、感極まって涙を流す研修生もいる感動的な会となりました。41期最後の経営後継者研修だよりでは、広報委員の皆様「経営総合実習」と「経営後継者研修を振り返って」をテーマに、印象に残ったことを書いていただきました。

41期の皆さん、自社に戻ってからの活躍も期待しています。10か月間お疲れ様でした！

経営総合実習

経営総合実習では、実際の企業に訪問させていただきました。研修も終盤にさしかかり、私たちにこれ以上学ぶこともないだろうというような慢心がありました。しかし、実際に研修が始まると、研修は思うように進まず、いままで学んだことを実際の企業に適用することの難しさを痛感しました。私たちは研修で様々な知識を得ましたが、それと実際の経営との間には、深い溝があるのだと、帰社前に知ることができたのは、大きな収穫でした。【長門小野田レミコン株式会社 中原一樹】

経営総合実習

企業にお邪魔させていただき、2週間という短い期間の中で経営に関しての改善提案をさせていただきました。自社以外の会社の状況を見せていただくという経験自体初めてでしたが貴重な体験をさせていただきました。「もっとこうすべきだった」と実習が終了してから分かる事も多かったですが、10ヶ月を通して自身や仲間の成長を実感しました。この研修の中で最も内容が濃くハードでしたが、深い学びを得る事ができました。【コトブキテクレックス株式会社 松本麟】



経営後継者研修を振り返って

私にとって経営後継者研修とは、「“未知”が“既知”に変わる10ヶ月間でした」。経営後継者研修にやって来た当初の私は、いまから考えれば、何も知らない状態でした。もっと言えば、自分が何も知らないことすら知らないような状態で、研修に対するモチベーションも高くはありませんでした。しかし、研修に参加して自分の“無知”に直面することになります。社長である父がどんな道を辿りいまに至るのか、会社の財務状態や人的資源はどうなっているのか、他の後継者はどんな状況や思いで研修に臨んでいるのか。私は数々の“未知”に直面し、ときに悩み、ときにぶつかり、ときに受け入れ、“既知”を積み上げていきました。そして10ヶ月が経過し、“既知”の足場から見た景色というのは、無数の“未知”で溢れていました。父と話したが働いているところを知らず本当に学ぶべき部分はまだ分からない、会社のことを調査したが働いた経験がないので実情は分からない、将来の計画を立てたがそれを実現できるか分からない。そして同時に、私が直面している“未知”とは、“可能性”のことでもありと知りました。おそらくこの目の前に広がる“未知”をひとつずつ“既知”=“現実”のものとしていく試みが、私にとっての経営になるのだと思います。目の前に広がる“未知”の荒野を“既知”のものとして拓き、やがて“致知”に至る長い道程の最初の一步として、経営後継者研修は意義深いものとなりました。【長門小野田レミコン株式会社 中原一樹】



INFORMATION

東京校 企業研修課からのお知らせ

第43期経営後継者研修について

2021年9月に募集開始予定です。完成次第、募集関係資料送付をご希望される方は以下のフォームからその旨ご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

<https://www.smrj.go.jp/contact/tokyo/index.php>